

保護者の皆様

令和5年10月吉日

川崎市立南野川小学校
校長 西村 勇一郎

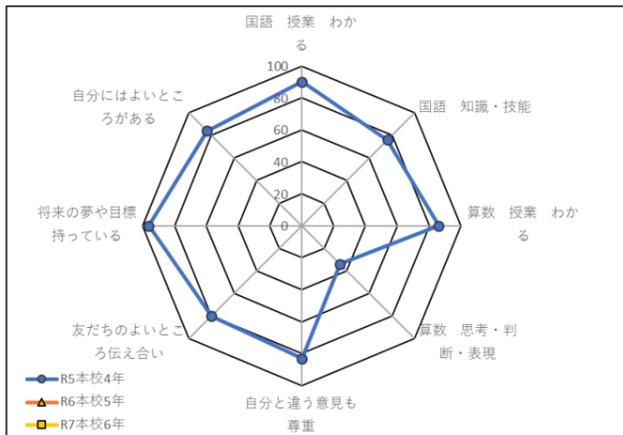
令和5年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月13日(木)に行いました4～6年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月18日(火)に行いました6年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校教育目標(育成を目指す資質・能力、目指す児童像等)の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは児童の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面です。本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学校ウェブサイト、学校報告会等でもお伝えします。

学校教育目標(育成を目指す資質・能力、目指す児童像等)
「たくましい子」「のびる子」「力をあわせる子」「あかるい子」
○自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とよりよく生きようとする心豊かな児童の育成

- ・様々な学習や生活の場面で活用できる基礎的・基本的な知識や概念及び技能
- ・未知の状況でも既得の知識や技能を活用してよく考え、課題を解決し表現する力
- ・多様性を認め、他者と協働する態度や学びの意義を実感して生活に生かす態度

令和5年度 川崎市学習状況調査 4年生

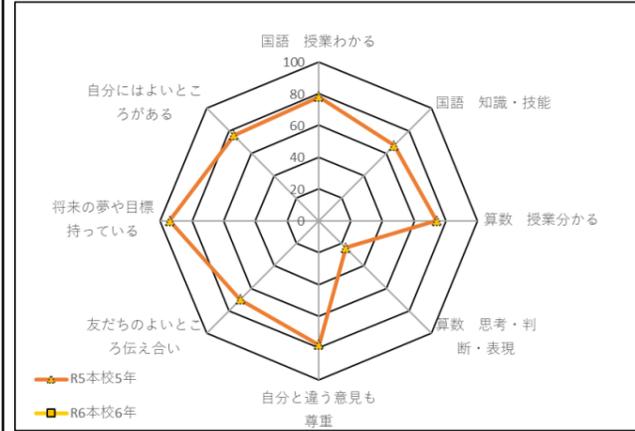


・4年生では、音読を重視して学習に取り組んでいます。「国語 授業がわかる」のポイントが高いのは、「自ら音読する」「友達の音読を聞く」という学習活動を通して、言葉の意味を正しく理解することができる児童が増えてきているからと捉えています。「国語 知識・技能」が全国平均より9ポイント低いので、学習内容の定着に関して工夫していきます。

・「算数 思考・判断・表現」については、全国平均を12ポイント下回っています。全ての問題を解き切れなかったという時間的な側面もありますが、問題の内容が理解できないという読解力不足の側面もあり、「読む」活動を大切にしたい授業を今後も続けていきます。

・生活に関するアンケートでは、自分についてのポイントより他者についてのポイントが低くなっています。社会性の発達途上と考えることができます。高学年に向けて他者を理解することは、とても大切になってきます。伝え合ったり尊重し合ったりすることは言葉によって行います。教科同様、語彙を増やし言語力の育成に努めていきます。

令和5年度 川崎市学習状況調査 5年生

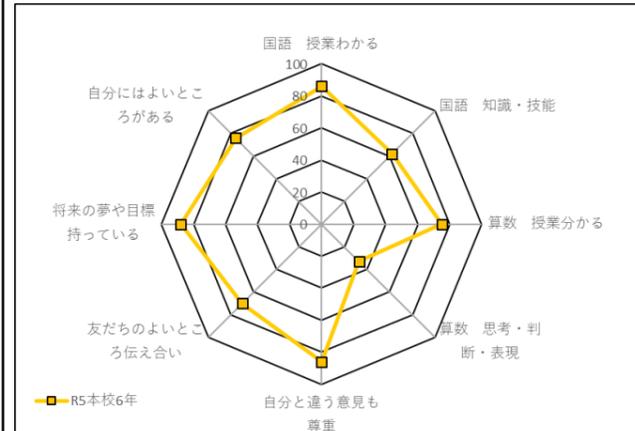


・「国語 知識・技能」が67ポイントで、全国平均を下回っていますが、4月と比べて学習課題に対して主体的、協働的に取り組む児童の姿が増えています。今後もGIGA端末を効果的に活用し、児童同士の学び合いやアウトプットする機会を増やすことに重点を置いて授業づくりをし、全国平均までのポイントアップを目指します。

・「算数 授業がわかる」と「算数 思考・判断・表現」はポイントに大きな開きがあります。5年生での学習の様子とこのポイントの開きを鑑みるに、算数では学習内容の定着を図ることの大切さと難しさが分かります。国語と同様に主体的で協働的な学びを目指しつつ、学習内容が定着できるよう授業内容を工夫し、ポイントの差が小さくなることを目指します。

・生活に関するアンケートでは「伝え合い」の項目のポイントがやや低くなっています。係活動の充実や学級会での話し合いを通じた意思決定の場面を増やし、自分や友達の考えのよさに気付けることを目指します。

令和5年度 川崎市学習状況調査 6年生



全国学力・学習状況調査 6年生



・「国語 授業がわかる」のポイントが高いのは、学習課題と目指す学習のゴールを理解し、何を考えたら良いのか、何をしたら良いのかが理解できている児童が増えてきているからと捉えています。一方で「知識・技能」「書くこと」はともに全国平均より5ポイント以上低く、苦手意識が強いことが分かります。「書きたい」と思うテーマの設定を工夫したり、書き方や言葉の言い回しを知れるように、お互いに書いた文章を読み合う活動を取り入れたりすることで、全国平均に近付けるようにします。

・「算数 思考・判断・表現」が全国平均より12ポイント下回っており、特に記述式の問題への取り組みに課題があります。問題の解き方を式や図、言葉等で表現する機会を大切にしていきます。自分の思考を表現するときには、既に習った学習との関連を意識することや、算数の用語を使うことを大切にすることで「知識・技能」の定着にも努めていきます。

・「自分にはよいところがある」と思っていない児童がいる中でも「人が困っていたら進んで助ける」ことができている児童が多いことが全国調査結果から分かります。相手のことを思いやって行動に移すことはできているので、お互いの良いところを伝え合う場面を設け、自分に自信がもてるように促していきます。